

2021年(令和3年)4月14日(水)第24回例会(通算2898回)

国際ロータリー第2580地区



石垣ロータリークラブ週報

会長：森田 安高 副会長：黒島 剛 幹事：東上里 広和 副幹事：吉田 貴紀

今月のロータリーレート 1\$¥110

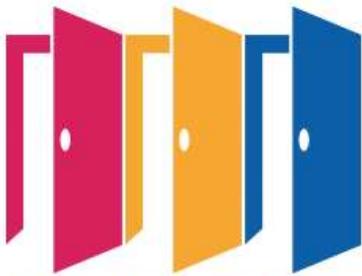
創立年月日：1962年3月12日

今年度創立60周年



2020-21年度 ◆クラブテーマ◆ 【心機一転】

クラブキャッチコピー：島のリズムで伝える平和と奉仕のくるくる(心)



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度 RI テーマ

RI 会長：ホルガー・クナーク

地区ガバナー：野生司 義光氏

☆地区年次目標☆

「会員増強」

「公共イメージの向上」

「ロータリーデーの開催」



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか



シリーズ：森の名人・戸眞伊さんと森の木

石垣方言：アサングル 和名：フカノキ

柔らかく、軽い材質で、強度がないこの木は、柱や梁などの建材には使えない。割れやすくて、よく燃えるそうです。建材にはむかないけど、壁材としては上等。また、センダンと同じく桐のような質感で、湿気を吸ったり吐いたりするので、八重山の風土には適していて、箆笥の引き出しなど家具の内材として、よく使われます。



3月24日(水) 例会報告

《司会進行：新垣 精二》

ロータリーソング：奉仕の理想 四つのテスト

ソングリーダー：大本 綾子

メイクアップ：大城 文博 西表 浩司 大濱 達也

前木 繁孝 上原 晃子

会員総数	47名
出席義務会員	46名
出席数	25名
欠席数	21名
出席率	67.39%
通算出席率(3月)	60.87%

★4月のプログラム

4/14(水) 例会及び60周年記念親睦の集い

4/21(水) 会員卓話：大本綾子氏

例会日 水曜日 12:30~13:30

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311

事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4

TEL/FAX (0980) 83-2917

URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

◆ 会長挨拶:森田安高 ◆



皆様こんにちは
 新聞等でも出ているように若い人がコロナの感染が出て地域ではクラスターもおきたともありますが、3密を避けてどうやったら出来るかという皆さんと協議しながら例会も開いて行きたいなと思います。実は、今月の31日は休会なのですが、夜間例会を60周年に向けての総決起大会をやるかと実行委員会の一部でそういう話しもあったんですが、今回の状況を鑑みて今回は予定通りに休会にして、4月に入って昼間の例会を総決起に変えて普段、例会に来られていない会員の皆さんに積極的に連絡をして60周年に向けての意識を統括しようという意味合いでやっていきたいなというふうに思っています。4月の一週目は地区大会が東京でありますので石垣からは9名で参加してきます。二週目以降で会員の意識をまとめて総決起大会をやりたいと思っていますので、その際にご協力のほどよろしくお願いいたします。今日の会員卓話、山下さんよろしくお願いいたします。

◆ 幹事報告:東上里和広 ◆

まず始めに、地区研修協議会の案内が届いております。この研修の目的は会長エレクト、次期クラブ幹事、次期クラブ委員長等のクラブリーダーが次年度2021年7/1の就任に備えるための研修となっております。例年なら対面式で東京で行われますが、今年度はZoomでのオンライン会議となっております。日時は4/21(水)本会議が15時~16時まで、分科会が16:10~17:10となっております。参加方法は各自のPC等を使って専用アドレスからログインして頂いて参加して頂きたいと思っております。参加にあたり分からない事がありましたら私か事務局までご相談ください。本日の15:00から16:40まで「奉仕活動情報交換研究会」がZoomオンラインで開催されます。ロータリークラブがどう行動したいか、クラブ運営と奉仕活動を考えるかというパネルディスカッションを予定しているようです。参加者の役職制限や事前登録、費用は無料となっておりますので、急ではありますが私か事務局にお声掛けしていただければ是非とも参加して頂きたいと思っております。5/29(土)に「第2580地区ローターアクト第52回地区年次大会」を会場対面とオンラインのハイブリッド形式で開催することとなったようです。大会のテーマは「えん」としまして本年度、当地区のひとつひとつのクラブにスポットを当て、クラブの垣根を越えた親睦を構築する新たな学びと出会いの場としたいとのこと。現地参加またはオンライン参加を予定される方は事務局か

私のほうまで言って頂ければ案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。最後に公営塾のほうに寄付金12万円を森田会長、遠藤社会奉仕委員長と私で寄贈してきました。本日の新聞にも取り上げられていて公共イメージのUPと社会・青少年奉仕活動にも寄与することが出来たと思っておりますので、皆さまにご報告させていただきます。

◆ 会員・委員会からのお知らせ ◆

危機管理委員会:橋本孝来委員長

幸いこのところはコロナウイルスの陽性者は出ないという状況で、非常に心配していました成人式も、新成人の皆さんは検査を快くうけてくれて、5日以上前に来た方は2回、直前の方は1回、PCRの陰性でもって式が行われました。恐らくそういう状況だから大丈夫だろうなと思っていますけれども、10日から1週間くらいは様子をみないいけないなと思います。手前どもの病院の話しをしますと、このペースですとつけば面会謝絶をいろんなところでやっていると思いますが4/1から石垣在住の方に限っては協力して頂いて、一家5人ぐらいまでは面会を緩めていこうと思っている状況にありますのでお知らせいたします。何とか平穏な感じで60周年までたどり着くようにとひたすら願っていますけれども、ワクチンが間に合ってくればもっともっと安心できたんですが、残念ながらすぐには無理かと思っております。あと緊急事態宣言も解除になっていますので引き続き行動には注意して頂いてやっていければいいかなと思いますし、少しずつ緩めていけるのかなと今の時点では考えております。

 会員卓話:山下 暢 氏
 (アートホテル石垣島 総支配人)

◆ テーマ ◆

コウノトリ育む(はくくむ) お米



皆様こんにちは。卓話を何にしようかと思ったんですが、皆さんは結構お仕事の話をしていただいておりますのでホテルの話をしてしようかなと思ったんですけど、こういう次期、愚痴しか出てこないと思ったので全く違う話にしました。「コウノトリ育むお米」というお米があります。これ実は、私の実家である兵庫県豊岡市が作っているお米です。なぜこの話をしようかと言いますと、石垣市のマックスバリュでこのお米が売られているのを秋に見て、へえこんなとこまで届いて売っているんだなというのをふと思い出して、単にコウノトリが生息している地域が作っているお米だけというふうにおそらく思われているんじゃないかなと思ったので、少しこれについて知って欲しいことがあってこの題材にいたしました。まず場所について説明いたします。兵庫県の北部にあります豊岡市というのがその舞台です。有名どころで言いますと城崎温泉というのがあります。志賀直哉の「城の崎にて」という小説でちょっと有名になったところなんです。どんなところかと言いますと旅館がいっぱい立ち並んでいるその中に七つの外湯があります。温泉の外湯が入るだけの建物が七つあり

ます。そこを浴衣と下駄で外湯巡りをするといった風情で結構人気ですね。写真にもありますように柳の木がいっぱいある土地です。その昔、柳のツルでこしらえた柳行李、今でいう鞆ですね。スーツケースになったりお弁当箱の変わりになったりとそういった物を作っていますので昔から鞆の産地で有名な土地になります。鞆の自動販売機もあります。殆ど買っている人を見たことはないんですけどね。鞆の自動販売機の珍しさではちょっと有名になったりしてますが、売っているのは基本エコバッグです。もう少し紹介しますと、大石くさんの銅像があります。赤穂浪士討ち入りの大石内蔵助さんの妻が豊岡市出身です。京都で古都に入ろうという前に家族のことを思って子どもを連れて実家に帰りなさいということで京都から豊岡市まで帰ったと、そのままお亡くなりになったのでここにお墓があるというところなんです。去年の12/26にNHKのプラタモリをご覧になった方もいらっしゃると思いますが、玄武岩で出来た玄武洞が紹介されて再び有名になりました。非常に硬い六角形の石になりますが、それが洞穴状態になっています。今は取れないですが昔は簡単に持って帰れたので、どの家にも漬物石として1個や2個はありました。さびれた観光名所だったのですがテレビの力は凄いらしく、必ず人が見に来るといふような状態になっているようです。左上の写真は松葉ガニになります。11月から2月ぐらいまでが旬で、去年の緊急事態宣言前の11月や12月は、GoToトラベルでもの凄い人が城崎温泉に来てたそうです。この辺で採れたカニがほとんど城崎温泉の方に向かってしまっていて、去年の暮れは地元がカニを食べれなかったというふうに聞いています。実際、私も田舎にいた頃はよく食べていたんですが、我々が食べるのはメスガニです。写真は見栄えも良い肉も多いオスガニなんですけれども小さいカニなんです。メスですので卵をお腹に持っていますので、非常にカニ味噌が美味しいです。オスの何倍も美味しいです。それがだいたい一杯2,3百円で売っているんですが、去年の暮れは1,500円くらいだったそうです。あとは竹田城、これもテレビのお陰でだいぶ有名になりました。県は違いますがすぐ隣の県の日本海側の鳥取砂丘があります。野茂ベースボールクラブが豊岡市にあります。前は大阪にあったんですが、土地改良などで高速道路を造るということで移転先を探していてどこからかの紹介で豊岡市に移ったと言われています。話しをコウノトリに戻します。豊岡市、盆地であるこの土地には、かつて田んぼに沢山のコウノトリがおりました。コウノトリがその辺にいる、降り立つのが日常だったというふうに言われております。コウノトリ、聞いた事はあるとは思いますが、なかなか見たことはない方がおります。立ち上がった姿が1羽強、翼を広げると2羽ぐらいになります。結構大きな鳥です。コウノトリの一番の特徴は、鳴くことが出来ません。そのかわりくちばしを叩いて音を出すというクラッタリングという、そういった形で鳴くかわ

りにしています。湿地帯に生息して、魚、蛙、バッタなどの生き物を捕食する鳥になります。江戸時代までは、コウノトリは普通に見られた鳥だったそうです。豊岡市のいろんなところに貼ってあるんですけども、人とコウノトリが確かに共存していた頃の写真です。明治時代になりますと、禁止されていた狩猟が解禁になってコウノトリが乱獲にあってしまいました。兵庫県但馬地方と福井県の若狭地方にしか残っていない状況になってしまいました。最後の生息地だった兵庫県豊岡市では、もう一度コウノトリを羽ばたかせようと、野生の復帰計画がスタートしました。最初に取り組んだのは、飼育して人工的に繁殖させ数を増やすという試みだったそうです。1963年、野生のコウノトリはその時点でたったの14羽で絶滅してしまう危険性が高いと判断し、野生動物を捕獲して繁殖に踏み切ることになりました。1965年、コウノトリの飼育専門センターを造って、2羽のつがいを捕獲して飼育がスタートしました。残念ながら繁殖が難しくなかなか増えなかったと言われています。その14年後、1985年ロシア政府からコウノトリの野生の幼鳥6羽送られまして、繁殖を目指して飼育場で飼育を始めました。国内各地の動物園も中国から輸入して飼育や繁殖に取り組んで、1988年に東京多摩動物園で初めての繁殖に成功しました。翌年に兵庫県でも繁殖に成功して毎年ヒナが誕生するようになりました。2002年には右肩上がりになり、兵庫県の飼育数が100羽を超えることになりました。次のステップとして、飼育されているコウノトリを野外に放してかつてのように野生で暮らすコウノトリを復活させるというステージに入りました。小浜島の孔雀は結構強いですが、絶滅しそうになったぐらいですから結構弱いんですね。果たしてそれが成功するかどうかっていうところでまずは、まだ分からないですけども仮として2005年に試験放鳥として5羽のコウノトリを豊岡市の空に飛び立たせました。その時、実際に放鳥させたのは秋篠宮ご夫妻、今は名前は違いますけれども、これが野生復帰計画のスタートになります。そして2007年には豊岡市に建てられました人口の巣塔、ここで初めて自然繁殖に成功。野外でのヒナのふ化は国内では43年ぶり、巣立ちは46年ぶりというところだったそうです。外に放鳥したからといって簡単には野生化しません。野生復帰の要になりますのは、コウノトリが安心して暮らせる自然環境作り。更には1羽、2羽の大きな鳥をその辺に放り出すもんですから、市民がこの鳥を受入れられる環境を作らなくてははいけません。コウノトリは一日500gを食べる大食いですので野生として生きるためには、大量の生き物が必要になります。野生化を目指していますので、ずっと餌をやっていく訳にはいきません。たどり着いたのが多くの生き物が生きられる農薬に頼らないお米作り。ここでようやくお米の話です。農薬を使うかどうかは当然各個人の判断によりますが、コウノトリのためということで説得して回って1件、2件と農薬を使わない農業

をやるところが増えてきました。実際に稲が実ったあとJAたじまは、この方法で作ったお米を全量買い取るということを実施しました。市のJAが全部を買うということですね。全部買うものすべてを売り切るのは難しい。そのお米だけ売っているわけではないので、東北の方から美味しいお米も売り場には並んでいますので、なかなか全部売り切れることは出来ませんでした。ただ、だんだんとそういった考えが浸透してきてコウノトリ育むお米を食べることが田んぼを守ることに繋がり、そう考えて学校給食にこのお米を使ってもらうように2007年に豊岡市の市長に中学生グループが直談判したというニュースがありました。それを受けて市長は、給食内で食べるお米はすべてこのお米にするということを決意して、段階的にパンからご飯を増やして行って現在では週5日すべてお米だそうです。年間95ト、これくらい学校で消費が出来ていると。私は専門家ではありませんので米の良し悪しは詳しく説明することは難しいです。私の実家がお米を作っているので、買ってくださいというような話でもありません。大きな鳥が野生化して害を及ぼす事例もあります。別の見解もあると思います。なんてことするんだというような。ただ絶滅しかけたコウノトリ、実際に日本の野生は

1回絶滅しています。ロシアとか中国からの子孫が今残っているだけです。それを復活させようとしたことと、それに対する方法としてそういった農法を使って作られたお米、これが石垣島で売られていたという事が嬉しくてこの話をさせて頂きました。飼育して人工的に繁殖、野外に放鳥、自然環境作りとお米作りの継続。2005年に飼育して育てたコウノトリが初めて自然界へ飛び立ちました。人を離れたコウノトリは、いろいろな地方に飛んでっています。写真は日本全国で見られたという記事の一部です。左から兵庫県南部の播磨地方、長野県と新潟県、右は千葉県ですね。そういった所まで野生のコウノトリがどんどん飛んでいっているということです。実際に放鳥して豊岡市からコウノトリが居なくなったらどうしようというような話もあったそうなのですが、やはり住みやすい食べ物がある田んぼ、そういった農法それによってやはり結構な数が豊岡市に残ったということだそうです。2020年の6月、兵庫県豊岡市県立コウノトリ郷公園、そこが発表した野外での生息が200羽に達成したと、一旦絶滅してロシア、中国からいただいた子孫を育て放鳥してようやく200羽に達成したという報告がありました。最後に映像をご覧頂きたいと思います。ありがとうございました。

～例会風景～



かつては日本全国の空を舞っていた
巨大な鳥のコウノトリ。



おいしい農産物と多様な生き物を
育み、コウノトリも住める豊かな文化、
地域、環境づくりを目指すための農法
でつくられたお米。



江戸時代までは普通に見られた光景



本日のニコニ

- ☆森田安高氏:山下さん 会員卓話ありがとうございました。
- ☆上勢頭保氏:本日の卓話 山下さんに感謝です。
- ☆宮良榮子氏:山下さんの卓話に感謝。
- ☆南波正幸氏:山下さん 卓話ありがとうございます。
- ☆新 賢次氏:コウノトリの卓話 有難うございました。
- ☆橋本孝来氏:山下委員長 卓話よろしくお願ひ致します。
- ☆今西敦之氏:西表会員 本日の卓話よろしくお願ひ致します。

◆BOX¥7,000 (累計¥170,418) ◆コイン¥620 (累計¥510,777) 合計¥221,495 ◆60周年記念基金 累計¥74,000

4月

新 賢次氏 2日(金) 大城 文博氏 25日(日) 大本 綾子氏 28日(水)

happy BIRTHDAY